

## 令和5年7月豪雨に関わる支援活動 最終報告書



2023年7月14日から16日にかけて東北地方に梅雨前線が停滞、その活動が活発になり東北地方の北部を中心に大雨をもたらしました。特に秋田県では24時間の降水量が観測史上1位の値が複数個所で観測され記録的な大雨となりました。大雨により地盤が緩んでいる地域では土砂崩れも起き、五城目町では大雨の影響で浄水場が浸水し、約1週間にわたる断水。秋田市では太平洋川の越水により、市街地で大規模浸水被害が発生しました。また、秋田駅周辺地域も浸水し、7月20日まで秋田新幹線を含む電車の運休を余儀なくされました。秋田県の発表によると県内で9,203棟が被災し、そのうち、7,946棟は秋田市でした。浸水被害を受けた家屋の大半は内水氾濫による被害のため、大量の泥が堆積するということがなかったものの、浸水した家屋の対応方法が分からず見えない恐怖におびえるような生活を続けられていました。

秋田市には県外からのボランティア団体が駆け付け、開設された秋田市災害ボランティアセンターで活動を行いました。対象となるボランティアは募集範囲を県外に広げられ、多く寄せられる被災者からの依頼に対応を行う中、被災者一人ひとりに寄り添った支援が必要とされていました。

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会(以下シャンティ)は、緊急人道支援に取り組むため、2023年7月20日より秋田県秋田市にスタッフを派遣し調査を開始し、社会福祉法人秋田市社会福祉(以下、社協)を始め、支援団体と連携し活動を実施しました。

## 初動調査

発災から約1週間後の7月20日から29日、初動調査として職員を派遣。平時からつながりのある団体を通じて、秋田市災害ボランティアセンター(以下、災害VC)にて調査を実施しました。今年、大雨による被害が多発し、全国各地で被災者支援活動が行われる中、秋田市では被災件数の把握にひと月以上かかり、被災状況の把握は現場を回ることが基本でした。初動調査では、子ども施設の被災調査と災害VCのサテライト運営のサポートを通じたニーズ調査を行いました。



災害VCの会議



被災状況をヒアリング

子ども施設の調査では、これまでの子ども支援関係者を通し、秋田市内で子ども支援に関わる団体へヒアリングを行い被災した保育園・幼稚園を把握。訪問を通して被災状況の調査を行うと共に支援方針を話し合いました。また、広範囲の被災地域を対応する必要がある災害VCでは、7月中サテライトが3か所運営され、ボランティア派遣が行われました。シャンティは、サテライトの運営サポートを行う中、被災地域の把握とニーズ内容を調査。また、災害VCで毎日行われるミーティングで災害VCや外部支援団体の支援方針を聞きながら活動内容を検討しました。

そこで、①被災した保育園・幼稚園の蔵書・備品等支援、②技術系NPOのコーディネーション支援、③復興支援イベントを通じたコミュニティ活性化支援を実施しました。

### ① 被災した保育園・幼稚園の蔵書・備品等支援

初動調査の結果、秋田市内に約80ある保育園・幼稚園のうち、4か所が床上浸水被害を受けたということが分かり、直接訪問を通して被災状況の調査を行いました。被災した施設に共通することとして、いずれも私立であり、当初の災害ゴミ処分や施設の修繕、備品の再購入など復旧に関わる費用のほとんどは自己負担で厳しい状況に置かれていることでした。夏休み期間の一時保育を行っていた施設は、場所を移し活動を続ける中、夏休み明けから再び子ども達を受け入れることが出来るのか不安を抱え、毎日の復旧作業に追われていました。また、施設の修繕が完了しても、遊び道具や絵本がないと子どもたちの居場所にはならないということで備品・蔵書等の支援を実施しました。

・こまどり保育園・幼稚園 <https://komadori.ed.jp/>

秋田駅東部に位置する子ども施設。

リトル(2歳未満児)、保育園、幼稚園の3つの建物があり、幼稚園と保育園の2棟の建物が床上20~40cmの浸水被害。通常の定員は保育園・幼稚園で300人程度(幼稚園220人、保育園80人)。夏休み期間は幼稚園で100人程度預かっていますが訪問した時には、規模を縮小し受け入れを行っていました。また、平屋建てのため、備品、遊具、絵本、ピアノ等ほとんどを水害によって失いました。施設は応急的に消毒作業などを行い、何とか2学期からの受け入れ再開を目指しており、シャンティは絵本や楽器、玩具を支援しました。



支援した備品等



### ・こばと保育園

秋田駅北部では一番規模の大きい保育園。床上 50cm の被害。1 階は 2～5 歳児が約 90 人利用していました。被災後は周辺施設を利用して分散保育で活動を続けていましたが、車が被災している利用者も多いことから場所が変わることで利用が難しくなる課題を抱える方もいたとのことでした。子どもが利用する棚などは特注品のものも多く、復旧には費用負担が大きいという話をお聞きました。そこで、施設復旧後、子ども達が自由に遊ぶ居場所となるよう室内遊びの備品を支援しました。



配備された玩具で遊ぶ子ども

### ・聖霊女子短期大学付属幼稚園・保育園

秋田駅南側に位置する子ども施設で床上 40cm の浸水被害。訪問した際は、すでに業者が入り、壁や床をはがす作業を行っている最中でした。園庭は災害ゴミで溢れ、壁の断熱材は水を含んでいたため、カビが生えている状態でした。職員は、これから 2 学期を迎えるにあたり、何人の子ども達を受け入れることが出来るのか不安を抱えていました。また、県で子どもたちに読み聞かせをするのにふさわしい本を選定する選考委員をされている園長先生は、「1 冊ずつ時間をかけて集めた絵本は水に浸かりほとんど処分してしまった」と話していました。子ども達が手に取りやすい位置に配置される本は浸水被害に遭いやすく、子ども達が一人でも安心して過ごす時間が奪われてしまいます。そこで、子ども達が安心して遊び、自由に本を読むことのできる居場所を取り戻すため、書架、蔵書、玩具の支援を実施しました。

#### 支援内容

こまどり幼稚園・保育園:鉄琴 2 個、絵本 70 冊、ブロック 5 セット、アップライトピアノ 2 台、電子ピアノ 3 台

こばと保育園:大型積み木 72 組、楽器一式(タンバリン 3,カスタネット 10、すず 50)

聖霊女子短期大学付属幼稚園・保育園:ブロック等 12 セット、書架 2 台、大型絵本 13 冊、アップライトピアノ 1 台、電子ピアノ 2 台

※協力:ヌンソンサン浜松

## ②NPO ニーズのコーディネーション支援

災害 VC では、10 月 17 日の閉所までの約 3 か月間で延べ 6,293 人のボランティアにより、1,193 件の支援活動が実施されました。被災者からの依頼は一般ボランティアが対応する濡れた家財の運び出しや家屋の清掃だけではなく、家屋修繕業者が入るまでの応急処置や家屋保全のアドバイス、また、活動を行う中で見えてくる生活課題を福祉的な対応が必要な場合もありました。そこで、シャンティは主に技術系 NPO と連携した NPO ニーズの現地調査を実施しました。

被災宅の訪問から被災家屋の状態やその住人の健康状態や経済状況、家庭環境などを加味して、必要に応じて技術系 NPO と共に床下作業を行ったり、社協と見守り訪問を行ったりしました。自身



浸水した家屋への調査の様子

では見ることが困難な床下に対して消毒の必要性があるか、泥や水が溜まっていないか、床や壁ははがさなければならないのかなど多くの不安の声を聞きました。また、複雑な支援制度を十分に利用できているのかを一緒に確認する中で、元の生活に戻るための道筋を考えました。

依頼を受けて現地調査に向かったお宅は「ボランティアの方に作業を依頼するのは、ある程度整理してからでないといけないと思って、最初は、全部、自分でやろうと思ったんだけどね」と2階で生活しながら洗濯機の中にいるような状態の1階を家族だけで2か月間何とか片づけをされていたようです。ボランティアではどんなことをサポートできるのかじっくり話をしながらお手伝いさせていただきました。

また、床の応急処置をお手伝いさせていただいたお宅では作業中に胸中を打ち明けてくださいました。「昨年に20年難病と闘った姉を亡くしたの。最終的には入院していたけどコロナ禍で最後をみとることができなかった」と涙ながらに思いを吐露。今回の水害では、床上浸水被害を受け、心身ともに疲れたけれど、「久しぶりに涙を流し話してスッキリした。これで少し前を向いて生きていける」と語ってくれました。

これらの支援は定期的に行われる災害VCでのケース会議で共有し、秋田市を離れた後も継続的に支援が行われるように意識して調整を行いました。



浸水した家屋へ送風機を設置

#### 現地調査・乾燥確認・活動等

7月20日～10月12日

活動件数:延べ195件

### ③復興支援イベントを通じたコミュニティ活性化支援

秋田市では被災者が気軽に立ち寄ることができる居場所として社協を中心にサロン活動「まるっとお茶っこ会」が実施されています。これまで、外部支援団体による物資支援拠点や被災者相談窓口として多く利用されてきました。今後、地域主体で市民交流の場が活性化し支え合う体制が続いていくことを願い、多くの人が集まることのできるイベント「まるっと落語会」を企画し、社協をはじめとする支援団体と連携して実施しました。

シャンティは、落語芸術協会に協力いただきお寺などを会場としたチャリティ寄席を長く行ってきたこともあり、平時より親交がありました。この度は、岩手県より桂枝太郎師匠にお越しいたき2日に渡り、3か所4高座開くことが出来ました。生で聞くのは初めてという方が多かった落語会は、秋田県の地域ネタを含めた噺が大盛況で会場は笑いに包まれました。落語会後のお茶っこ会では、久しぶりに再会した住民が抱き合っって喜ぶ姿もあり、コロナ禍と大雨により地域の交流の場が奪われていたことを改めて実感。支援活動の中で知り合った住民さんからは「昨日キッチンのシンクが入ったの」、「正月は1階で過ごすことが出来そう」と少しずつではあるが復興に向かう様子を聞くと共に、お茶とお菓子を味わい交流する場となりました。

今回の水害では、在宅避難者がほとんどだったことから地域の民生委員や区長、班長など平時からある見守りの仕組みが非常に有効に働いておりました。この落語会を通して、地域住民の顔の見える関係が少しでも広がり、地域交流の機会が増えるきっかけになればありがたいと思います。



落語会の様子

協賛・協力:落語芸術協会、秋田市社会福祉協議会、秋田まるっと会議

秋田県曹洞宗青年会、曹洞宗秋田県宗務所、曹洞宗秋田県宗務所婦人会

食材提供:いとく新国道店

### まるっと落語会

11月26日、27日

3地域4公演

参加者:約160人

炊き出し:約70食



おちゃっこ会の様子

## 最後に

秋田市災害ボランティアセンターは10月17日に閉所され、現在は地域支え合いセンターとして被災された方への見守りや相談、お困りごとへの対応が続いています。厳しい冬を迎える秋田市では技術系NPOによる家屋の防寒対策も行われ、家屋修繕業者が入るのは来年という家も少なくないとのことで、メディアで取り上げられる機会は減ったものの復旧には時間がかかります。改めて本年の自然災害で被災された方々へ心よりお見舞い申し上げますと共に1日も早い復旧をお祈り申し上げます。

**事業実施期間**

2023年7月20日～12月31日

**会計報告****【収入】(順不同)**

項目	金額(円)
日本財団からの助成金	928,281
中央共同募金会	702,389
日本テーラワーダ仏教協会	2,000,000
ご寄付	260,850
合計	3,891,520

**【費用】**

	項目	金額(円)
現地事業 実施経費	旅費交通費	1,039,194
	活動費	1,068,083
	雑費	38,031
	職員(派遣スタッフ)人件費	970,000
	一般管理費	776,212
	費用総額	3,891,520

\*当事業は、主に、「日本財団」様、「中央共同募金会」様からの助成金と「日本テーラワーダ仏教協会」と皆様のご支援を受けて実施しました。また、当会の地域関係団体「ヌンソンサン浜松」の協力により、被災した保育園・幼稚園にピアノ(合計9台)、パーカッション楽器を寄贈することができました。

発行日:2023年12月21日



公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

地球市民事業課

東京都新宿区大京町31 慈母会館2,3階

TEL 03-5360-1233

FAX 03-5360-1220

URL <https://sva.or.jp/>